

## 第2章

# 口腔疾患に有効な漢方薬

### 1 口腔内の疼痛

口腔領域、特に歯肉や歯槽骨の疼痛は、炎症性反応で圧力亢進により神経への刺激が与えられている場合が多い。このようなとき、うっ血や圧力亢進を改善する目的で、漢方製剤が使用される。血行障害を取り除く効果のある生薬成分を含んだ漢方製剤を用いるとよい。

歯髓の圧力が高まったことによる疼痛では、圧力を減らす目的で、利水作用のある生薬や瀉下作用のある生薬を含んだ製剤を用いると効果が出る場合がある。

立効散<sup>りつこうさん</sup>は、抜歯後の疼痛、歯痛に用いられるが、粘膜の疼痛にも効果がある。体力などの証は選ばないが、体力のある実証には効きにくいことがある。アスピリン喘息の誘発がなかったという報告もある。

葛根湯<sup>かつこんとう</sup>は、リンパ腺炎、扁桃腺炎、上半身の神経痛、熱性疾患の初期に用いられる製剤で、比較的体力のある実証に効果的とされる。無汗、背中や肩の凝りがみられる場合にも効果があり、筋肉痛にも有効で、顎関節症など筋痛に由来する疼痛に効果がある。

五苓散<sup>ごれいさん</sup>は、一般に頭痛、めまい、二日酔などに用いられる製剤であるが、構成生薬の茯苓や白朮などの利尿作用や血液凝固抑制作用などで、利水作用があることでも知られている。水分代謝や水分分布の異常を改善することから、神経痛や歯髓炎、知覚過敏にも臨床的に効果がある。また、浮腫の改善にも有効であることから、舌が腫れぼったい所見のある場合の諸症状に効果が期待できる。

桂枝加朮附湯<sup>けいしかじゆつぷとう</sup>は、関節痛、神経痛に効果があるが、利水作用があり、附子を含むことから、冷えて痛みのあるものによく用いられ、神経痛だけでなく麻痺にも使用されることがある。

### 2 歯周病

歯周病は、炎症反応であるので、細菌に対する防御反応としての生体反応を高めることも考慮して対応する。排膿作用や抗炎症作用、免疫作用を改善する生薬が含まれる製剤を用いることが多い。

葛根湯は、排膿作用が期待でき、炎症に対する生体反応を高める作用ももつ。構成生薬である芍薬と甘草は筋肉の痙攣の改善に効果があり、葛根、麻黄、桂枝は発汗作用を有することから排膿作用を期待できる。生姜と大棗は、滋養強壯の作用があることから、末梢血液循環の改善や免疫力の向上にも有効とされる。

排膿散及湯<sup>はいのうさんきゆうとう</sup>は、患部が腫脹して疼痛を伴った化膿症に効果がある製剤で、炎症性浸潤が強い症例に適しており、特に排膿がだらだらと続くものに効果的とされる。

黄連解毒湯<sup>おうれんげどくとう</sup>は、ノイローゼ、脳溢血、高血圧、皮膚搔痒症に有効な製剤で、比較的体力があり、

## 第3章

# 医科で処方される主な漢方薬

近年、医師の9割以上が何らかの形で患者に漢方薬を投与しているといわれている。現在、世界の医療の潮流は西洋医学と補完代替医療を組み合わせた統合医療のほうに向かっている。

また、現代はストレス社会・超高齢社会となり疾病構造も複雑に変化しており、漢方療法はこれらの社会の変化に適応しやすいため、漢方治療を受ける患者数は飛躍的に増加している。しかし、複数の診療施設で漢方が重複投与されている場合、生薬構成によっては過量となることもある。さらに、西洋薬との併用禁忌の場合もあり、患者の投薬内容を熟知し、有害作用、副作用防止に努めることは医療者として重要である。

### 1 漢方の投与禁忌例

漢方の投与禁忌例として、

- ① インターフェロン投与患者、肝硬変、肝癌患者、慢性肝炎の肝機能障害で血小板数が10万/mm<sup>3</sup>以下の患者への小柴胡湯の投与
- ② アルドステロン症患者、ミオパチーのある患者、低カリウム血症のある患者への半夏瀉心湯、小青竜湯、人参湯、五淋散、炙甘草湯、芍薬甘草湯、甘麦大棗湯、芎帰膠艾湯、桂枝人参湯、黄連湯、排膿散及湯、桔梗湯、甘草湯、芍薬甘草附子湯、附子理中湯の投与

が挙げられる。

### 2 相互作用

漢方の相互作用として、

- ① 麻黄含有製剤とエフェドリン製剤、MAO阻害剤、甲状腺製剤（チロキシン・リオチロニン）、カテコールアミン製剤（アドレナリン・イソプレナリン）、キサンチン系製剤（テオフィリン・ジプロフィリン）の併用注意
- ② カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸およびその塩類を含有する製剤、ループ系利尿剤（フロセミド、エタクリン酸）、チアジド系利尿剤（トリクロルメチアジド）の併用注意

を挙げることができる。

また、漢方の有害作用として、間質性肺炎／偽アルドステロン症／うっ血性心不全／心室細動、心室頻拍／ミオパチー・横紋筋融解症／肝機能障害・黄疸・劇症肝炎／腸間膜静脈硬化症なども報告されている。

さらに、附子製剤の重複使用も、量によっては附子中毒を惹起することがあり、他科からの漢方投薬内容や、西洋薬の投薬内容を確認して、より安全な薬物療法を実施する必要がある。

医療保険に適応のある漢方製剤の添付文書から、効能・効果および関連する病名について表 6-18 に示す。

表 6-18 効能・効果からみた歯科疾患に対する漢方製剤（医療用）

効能・効果 <sup>*1</sup>	医療用漢方方剤 <sup>*2</sup>	関連する病名 <sup>*備考</sup>
抜歯後の疼痛、歯痛	ツムラ立効散 (TJ110)	* 口に含んで服用すると効果的
口内炎	ツムラ半夏瀉心湯 (TJ14) + 他社 ツムラ茵陳蒿湯 (TJ135) + 他社 ツムラ黄連湯 (TJ120) + 他社 コタロー平胃散 (N79)	口内炎 再発性アフタ、潰瘍性口内炎など
口渇	ツムラ白虎加人參湯 (TJ-34) + 他社	口腔乾燥症
口渇（使用目標）	ツムラ五苓散 (TJ17) + 他社	
咽喉の乾燥感（使用目標）	ツムラ麦門冬湯 (TJ29) + 他社	
喉に潤いが無い	ツムラ滋陰降火湯 (TJ93) + 他社	
筋肉痛	ツムラ薏苡仁湯 (TJ52) + 他社 ツムラ疎経活血湯 (TJ53) + 他社 ツムラ芍薬甘草湯 (TJ68) + 他社 ツムラ麻杏薏甘湯 (TJ78) + 他社 クラシエ葛根湯 (EK1)	顎関節症 口腔・顎顔面領域の筋肉痛
神経痛	ツムラ桂枝加朮附湯 (TJ18) + 他社 ツムラ疎経活血湯 (TJ53) + 他社 ツムラ五積散 (TJ63) + 他社 ツムラ麻杏薏甘湯 (TJ78) + 他社 コタロー桂枝湯 (N45) コタロー八味丸料 (N7) コタロー葛根湯 (N1)	三叉神経痛 口腔・顎顔面領域の神経痛
神経痛（上半身）	ツムラ葛根湯 (TJ1) + 他社	口腔・顎顔面領域の神経痛
しびれ	ツムラ牛車腎気丸 (TJ107) + 他社	口腔・顎顔面領域のしびれ
関節痛	ツムラ桂枝加朮附湯 (TJ18) + 他社 ツムラ薏苡仁湯 (TJ52) + 他社 ツムラ疎経活血湯 (TJ53) + 他社 ツムラ五積散 (TJ63) + 他社 ツムラ芍薬甘草湯 (TJ68) + 他社 ツムラ麻杏薏甘湯 (TJ78) + 他社	顎関節症
蓄膿症	ツムラ葛根湯加川芎辛夷 (TJ2) + 他社 コタロー辛夷清肺湯 (N104)	上顎洞炎
打撲による腫れおよび痛み	ツムラ治打撲一方 (TJ89) + 他社	口腔・顎顔面領域の打撲症
浮腫	ツムラ五苓散 (TJ17) + 他社 ツムラ防己黄耆湯 (TJ20) + 他社 ツムラ木防己湯 (TJ36) + 他社	クインケ浮腫 口腔領域の浮腫
むくみ	ツムラ防風通聖散 (TJ62) + 他社 ツムラ六味丸 (TJ87) + 他社 ツムラ牛車腎気丸 (TJ107) + 他社 ツムラ柴苓湯 (TJ114) + 他社 ツムラ茵陳五苓散 (TJ117) + 他社	クインケ浮腫 口腔領域の浮腫
リンパ腺炎	ツムラ葛根湯 (TJ1) + 他社 コタロー柴胡清肝湯 (N80)	口腔・顎顔面領域のリンパ腺炎